

これから概ね10年先を見通した新市の将来像を検討するにあたり、あらためて、熊本市と植木町の特性を整理し、時代の潮流を踏まえながら、特に、新市の将来に向けたまちづくりの方向を明らかにします。

1. 新市の特性

(1) 暮らしやすく住みやすいまち

熊本市は、清らかな地下水や緑、安全でおいしい農水産物や全国屈指の名城である熊本城など、自然や歴史と文化に恵まれ、また、快適な都市機能も備わった「暮らしやすく住みやすいまち」であることが最大の特性です。加えて、世界的に有名な阿蘇山の恵みである豊富な地下水によって、68万熊本市民の上水道の全量を賄っており、平成20年には、第10回日本水大賞グランプリを受賞するなど、「日本一の地下水都市熊本」の名は全国に知られるようになっています。

植木町は、熊本市と同様飲料水の全量を地下水で賄う豊かな自然環境にあり、わが国近代の夜明けの舞台となった田原坂などの史跡、優れた泉質で湯量豊かな温泉、日本一の生産量を誇るすいかなど全国に誇る地域資源を有し、自然や歴史に恵まれた環境の中で、国道3号、国道208号などの幹線道路沿いに商業業務地域が立地するなど、熊本市と同様に、都市的サービスと良好な環境が調和した暮らしやすく住みやすい町です。

(2) 九州中央の交流拠点都市

熊本市は、古くは城下町として栄え、現在も行政・学術研究機関などが数多く立地しており、九州内外から多くの人々が交流するまちです。特に、熊本城では築城400年祭の開催や本丸御殿などの復元整備事業を進めた結果、平成20年の入園者数が200万人を超え日本一となりました。今後とも、九州中央の交流拠点として、熊本都市圏を構成する市町村と相互に補完協力し、100万熊本都市圏や熊本県の発展をけん引する役割を担っていく立場にあります。

一方、植木町は、九州縦軸の大動脈である国道3号や九州縦貫自動車道が縦断し、さらには玉名から阿蘇・大分へ国道208号や県道大津植木線などの国県道が横断しており、九州における広域交通の要衝となっています。また、観光では、西南の役の舞台となり、年間約30万人の観光客が訪れる田原坂や湯量豊かな植木温泉・宮原温泉など、個性ある歴史・文化、人々に癒しを与える観光スポットが存在するなど、歴史・文化から都市機能に至るまで、多くの人々が集い、交流する拠点としての機能を備えています。

【第4章】新市の特性と新しいまちづくり

2. まちづくりの方向

(1) 人口減少、人口構造変化と暮らしやすいまちづくり

わが国は、既に平成17年をピークに人口減少社会を迎えており、熊本市においても、早ければ平成22年をピークとして人口減少に向かうという予測がなされています。このような中、都市活力を維持していくためには、交流人口の増大によるにぎわいと活力の維持や雇用の創出による生産年齢人口の確保が不可欠です。

また、これまでの人口増加を前提とした都市づくりから転換し、社会資本の有効活用と適正配置や、少子高齢社会に対応した、だれもが利用しやすい公共交通機関などの整備に取り組むとともに、地域における高齢者や子育て支援の充実を図っていく必要があります。

(2) 分権社会の進展と自主自立のまちづくり

地方分権社会の進展に伴い、基礎自治体としての市町村には、自らの判断と責任に基づくまちづくりが求められています。

このような中、熊本市・植木町ともに豊富な地下水に恵まれ、自然と都市機能が調和した「暮らしやすく住みやすいまち」という特性があります。また、熊本市においては、大学などの教育・研究機関が集積した「文教都市」、400年の歴史が息づく「城下町」、植木町においては「田原坂」「すいか」「温泉」といった優れた地域資源を有するとともに、国道3号及び国道208号、九州縦貫自動車道が走り、さらには植木インターチェンジが設置されているなど、九州の自動車交通の要衝という個性があります。これらの特性・個性を生かしたまちづくりを進めることで、地方分権時代に対応した新市としてさらなる飛躍が可能になります。

加えて、地方分権時代においては、自治体単位のみならず、コミュニティごとにそれぞれの伝統、文化、自然などの地域特性を生かした地域づくりを進めていかなければならないことから、今後は、自治体内での分権を推進するとともに、相互扶助などの地域力を高めるなど、地域住民自らの決定と責任に基づく地域づくりに必要な体制整備が不可欠となります。

そこで、熊本市と植木町とが合併し政令指定都市を実現させることにより、未来へ飛躍する新しいまちづくりを迅速かつ強力で推進していくとともに、住民サービスのさらなる向上を図るため、区役所を中心に住民に身近な場所での行政サービスの充実や、自主自立の地域づくりに対するサポート体制の整備などに取り組んでいく必要があります。

【第4章】新市の特性と新しいまちづくり

(3) 九州新幹線開業と九州中央の交流拠点都市づくり

高速交通網の整備により、都市間の移動時間が大幅に短縮し、内外の交流が活発化しています。特に、熊本都市圏においては、九州新幹線鹿児島ルートの特急全線開業により、福岡都市圏や鹿児島都市圏などへの機能流出が懸念されています。

このような中、九州新幹線の特急全線開業を新市のさらなる発展の契機とするためには、将来の道州制の州都をも見据え、両市町が一丸となって九州中央に位置する地理的特性を生かしながら、九州のみならず広く東アジアを見据えた交流拠点都市としてのまちづくりを進めていくことが必要です。

また、九州新幹線の特急全線開業を契機として、新市を中心とした熊本都市圏と福岡都市圏や鹿児島都市圏、さらには九州各拠点都市が連携を強化し協力することで、九州全域の一体的な発展へとつなげていくことが可能となります。

